



**市長** 半年に30人も、1年に60人ということですか？思った以上に厳しい世界ですね。体力が必要な競技だと思いますが、競輪選手の選手生活はどのくらいですか？

**稲垣** 私がプロになった頃は20代後半までと言われていると思いますが、今は体の使い方を手早くすることで、ピーク時の年齢は10〜15歳は上がりました。トップ選手には40代前後が多いです。

レースでは、最終4コーナーまでは「ライン」といった競輪独特の協力体制を取って走るので、速く走るだけでは勝てない。通常3人でラインを組みますが、時速70\*のスピードが出るので皆さんが思う以上に空気を抵抗がかります。そのため先頭は脚力を消耗する代わりに、2番手、3番手の選手は抜こうとする他のラインの選手をブロックします。後続の選手は体力を消耗しないけれど、

強いと思いますか？

**稲垣** はい。思います。でも、今の技術や考え方に至るにはこれまでの経験や時間が必要だったと思います。

逆境をハネにして

**市長** これまでではあまり大きなけがはなかったんですか？

**稲垣** 骨盤骨折1回と鎖骨骨折2回があります。最高時速は70\*以上にもなるので、転倒はけがに直結することが多いです。

**市長** そんな大けがをして、選手として復帰は無理だとは思ってこなかったんですか？

**稲垣** あります。実際、周囲では「もう稲垣は…」と言われたこともありましたし、自分でもG1優勝には縁がないのかとも思いました。でも、競輪選手を引退する時に「なに自分生涯を終える時に

ブロック時に転倒するリスクを負います。このチームワークという人間模様が競輪の大きな魅力です。皆、勝ちたいという気持ちに変わりはありません。でも、勝つために何をしてもいいというわけではない。コースが空いたからといってラインを無視してそこを突いて出るのには、ルール違反にはなりません。モラルとして問題です。

**市長** 自分勝手に走ると優勝する機会は少なくなるということですか？いろいろな駆け引きの中で自分の役割りをきっちり果たさないといけない。

**稲垣** そのとおりです。たとえ実力があつたとしても、単独で強い風圧を受けながらレースの最後まで突っ走ることにはできません。自分の役割りを果たすことが一番優勝に近いんだと気付くのに時間がかかりました。ラインから優勝

は「良い人生だったなあ」と言えるようになるまでかかったんです。納得できる生き方は、僕にとっては自分の決めたことをやり通すことだったので、なので、けがをした瞬間は逆に「これまでで良かったのかな？」と、気持ちを新たにしてくれるきつかけになりました。強い選手はけがやスランプを乗り越えていて、不測の事態も強くなっていく上では必要なかなと思います。取材の時、それまでは言わずに謙虚にしていたんですが「優勝を狙つ」と口に出して自分にはプレッシャーをかけたらG1に勝てました(笑)。先ほど、市長がおっしゃったように「目標を口に出した」効果だと思っています。

**市長** 競輪選手の夢をかなえたのも近道ではなく、G1優勝もけがを乗り越えての優勝。順風満帆とは言えない中、気持ちを持てるのも大変だったと思いませんか？

者が出る。たとえ自分の成績が悪かったとしても本気で感激します。

**市長** 年齢的に円熟期だと思えますが、稲垣さんはいつまでこの世界にいたいと思っているんですか？

**稲垣** 成績が残せなくなったら引かないと駄目なのかという気持ちと、残せなくなつてついになまきりぎりまで続けたという気持ちもあります。

**市長** 毎日練習されているんですか？

**稲垣** はい。朝の時から夜の7時くらいまで毎日練習しています。

**市長** トレーニング漬けですね。練習内容もどんなものですか？

**稲垣** 陸上で例えるなら競輪は中・短距離走のようなもので、マックスまで追い込む練習と、自転車を乗りこなすスキルにも多くの時間を費やしています。

**市長** まさに「心・技・体」ですね。心の持ちようが技術的な面で体力ですね。

**稲垣** 自転車は繊細な道具なので技術が必要で、これも選手生命が長くなった理由の一つです。競輪用の自転車はチューブの厚さが0.1mm変わるだけでも感覚が違っため、フレームはミリ単位でオーダーします。「次はこれ」と、どんどん改良していく。良い道具を探し続けることも面白い。

**市長** 若い頃に今の技術があればもっと

ますが、後悔しないところまでやり切るという稲垣さんの粘りには共感します。人生一度きりですからね。ここまでやり切ったという達成感や実を結ぶ結はないに関わらず必ず自分の力になります。

**稲垣** 僕は好きなことが見つかった幸運だったと思います。が、どんな事にも「やりがい」はあると思っています。今やっていることをもう一度一生懸命やるのも大切だ。

**市長** 全国を転戦しておられますが、故郷の舞鶴はどのくらいですか？

**稲垣** 自然豊かな舞鶴で育ったからこそ、自転車の良さにも気づけたと思っています。僕が自転車にのめり込んだのも、人と競つてついに自らも自転車で走って風を切って走る爽快感でしたから。これから舞鶴は発展していつかもう戻りたいけれど、自然は舞鶴の良さを残してあげたいと思います。

**市長** 舞鶴が都会に勝るとは、豊かな自然、独特の歴史、文化、おいしい食べ物、人と人の絆が強いこと。自分のまちを素晴らしいと思わなければ地方の復活はないと思いませんか。よく知っていることを磨き、悪いところは改善していきたいですね。悪いところを悔やんでばかりではダメ。稲垣さんには、日本中の「舞鶴出身ですー」と舞

鶴のPRをお願いしています。

**稲垣** もちろんです。各地で「舞鶴出身」と言えるのを誇りに思います。

**市長** 今回お話をさせていただいて競輪を身近に感じるようになりました。私たちも応援します。けがには気を付けてこれからも頑張ってください。

**稲垣** ありがとうございます。



▲G1レース（第25回寛仁親王牌）の表彰式



Inagaki Hiroyuki  
Tatami Ryoza

